

令和7年度第2回 社会教育委員の会議 会議要旨

日 時：令和7年10月23日（月）13：30～
場 所：生涯学習総合センター研修室5・6
出席者：委員9名、事務局5名

1 開会

2 議事

①会津若松市の魅力を生かす社会教育の推進について

前回までの会議で議論した「会津若松の魅力」を生かした社会教育の方向性について、提言書の骨子案について議論した。

【委員からの主な意見】

I. 会津若松市の魅力の再確認

- 「歴史と伝統文化」のところや「自然と食」のところにおいて、コンテンツが結構多くなっているので、こういうアクターがいるみたいな言及があると良いと思う。例えば文化団体のところだと、担い手のことを言ってみてもいいし、伝統工芸のところも、実際継承している人など、担い手とか、それを発信する人々の存在とか、あるいは社会教育の中で活躍している人々の言及というのがあると、より活躍の幅が広がるのではないか。

II. 会津若松市の魅力を生かした社会教育の方向性

1. 魅力の認識について

- 社会教育は、誰が具体的にどうしていくのかというところがかなり大切だと思うので、この文言が、誰にに向けて支援をしていけばいいのかということを明確にするため、主語を入れていくと良いと思う。
- 「あいづっこ」という言葉を1つのキーワードにしてというのがあるが、説明がないと伝わらないので、もう少し文言を加えた方が良い。
- 「地元の人にもっと地元のことを」という表現は検討すべきではないか。

2. 魅力の活用について

- 例えば、介護とか、社会福祉など、社会教育に生かせそうな専門職の人々へ向けた、またはその人による講座みたいなものがあっても良いと思う。地域の潜在的な専門職の利活用は有効であると思う。

3. 魅力の共有について

- ・「資格を持った人材」ということが書いてあるが、ここは社会教育士というワードを使っても良いと思う。今、社会教育士は文部科学省の方でも推進しているし、今後、社会教育主事とか社会教育士などの活用の幅は広がってくるので、この資格というところを具体化してしまっても良いと思う。
- ・逆に「人材」をその人だけになると動きにくくなる。社会教育士はそれほどいないと思うが、地域の子供たちが、格差なく楽しく学んでほしいと思うので、そういう思いの人が動くことが良いと思う。
- ・資格を持った人材だけじゃなく、ボランティアなどお手伝いしたいという市民の方でよろしいのではないか。確かに資格を持ってるとさらに良いと思うが、限定されるので、表現を変えると良い。
- ・「中高生が集まって町の魅力などを発信できる場所」は、どこまで踏み込んで書くべきか。
- ・「駅」というところも引っかかるが、栄町第二庁舎が交流の場所として広い場所ができると聞いてるので、そこに中高生だけでなく、色んな市民の方や団体の方が集まって街の魅力などを発信したり交流する、という形も良いのではないか。

4. 魅力の発信について

- ・情報というのは鮮度が結構重要だと思う。情報の内容が変わるたびに更新された内容でまた発信されるとか、そういうことがないと、ショッちゅう見に行くとかということはなくなると思う。
- ・SNSについては、活動する主体とか、誰がというところを少し具体化できると、もっと膨らみが出てくると思う。市役所の職員でも、大学生でもいいし、高校生でも誰でも良いと思うが、そういう文言が入るとイメージが膨らむ。
- ・魅力の発信の具体的な施策で、「中高生や観光大使」と1つ目があり、2つ目も「中高生たちに」となっていて、最後に「会津大学で学ぶ学生」とあるが、この3つとも、中高生も大学生も全てできるのではないか。
- ・SNSの発信なら、学生じゃなくても市民でもやってる方がいるので、学生に限定しなくても良いのではないか。
- ・主語は限定した方がやりやすいので、この文章はこのままでも良いと思うが、限定されてしまうことによって、排除されてしまう者が出てくる可能性もあるから、その辺のバランス感覚は検討していただきたい。

5. 魅力の継承について

- ・具体的施策例の「会津弁を取り入れたカルタ」はすごく良いと思う。ぜひ実現させて欲しい。
- ・ボードゲームもいいと思う。また、カルタやボードゲームを作るプロセスに市民が入ってもらうのも結構面白い。

III. 今後の社会教育の推進に向けて

1. 幅広い対象に向けた社会教育の推進について

- ・「社会教育は福祉であり、学ぶ権利や生活を豊かにする生存権などを保障することが社会教育の本義」という一文が素晴らしい。これをもっと全面に押し出せないかと思うので、Ⅲの冒頭のところに入れても良いのではないか。
- ・「子供たちに人間として大事な心の部分や情緒の部分がなかなか伝わらず継承していくしかない」というところが、理解が難しいので、別の表現が良いと思う。
- ・「様々な事情を抱えた家庭でも」という文言はいらないと思う。色々な方が気軽に学べる講座を継続して提供することが重要、という感じで良いのではないか。
- ・「様々な事情を抱えた家庭」という文言は入れた方が良いと思う。これを明確に言わぬことによって、排除される者が出てくる可能性がある。様々な事情を抱えた個人、家庭ということで、どこまで踏み込みかということもあるが、例えば障害がある方や一人親家庭とか、そういう人々に対する支援が必要でないかということは明確に謳った方が良い。そういう人々が生涯学習に繋がらない結果、福祉に繋がらないことが多いからというのが理由である。
- ・「様々な事情」というのが引っかかるのであれば、「多様な家庭の」に変えて良いと思うが、会津若松市全体が、誰一人取り残したくない、誰でもいいんだよというスタンスでいてほしいとすごく思う。
- ・色々な講座を企画しても、手を上げて参加する人は限られている。例えば実施する時間帯とか曜日とか場所、会場なども検討していくと、色々な方が出やすいと思う。
- ・実際に貧困の家庭も、障がい者もそうだろうし、例えば自分で来れない、歩けないという人の支援とか、講座を受けるために必要な環境の整備とか支援とか、そういう部分がここに入ってきても良いと思う。
- ・バリアフリー化というのが入ってもいいし、高齢者などが気軽に受講できるようにコミセンや公民館で講座を開催するというような文言など、様々な人々がいつでも学べるような環境を作るというような表現になるのと良い。

2. 若い世代へのアプローチについて

- ・今、若い女性が高校出て都会に行って、なかなか戻ってこないということが問題になっているので、社会教育にも男女共同参画という視点を入れてほしい。
- ・会津若松市の未来を考えるためにあって、多様なジェンダーの人々が活躍できる社会ということを打ち出していくことは、非常に重要な視点になってくると思う。文言としては、男女共同参画という言葉より、ジェンダー平等がいい。

3. 社会教育の担い手の育成と確保について

- ・地域づくりに一生懸命頑張っている人や学校と地域との連携を一生懸命やっている人もいるので、「図書ボランティア」に限定しないで、広い意味での言葉にした方が良い。

- ・ここに、社会福祉士、社会教育士や、ソーシャルワーカー的な役割を担う人材ということで、例示として挙げても良いと思う。
- ・担い手の育成ということであるので、例えばそういう資格を持つ人を育てるとか、資格取得を支援する部分がここにあっても良いのではないか。

4. 社会教育施設等の活用について

- ・「図書館や公民館が良い居場所となって人が集まり」とあるが、「良い居場所となって」というのが漠然としてるので、別の表現が良いと思う。例えば、「図書館や公民館が利用しやすい場所となって」など。「良い居場所になって」というのが、捉えようによつては図書館や公民館が今あまり良い居場所ではないのという捉え方にもなってしまう。
- ・コミュニティセンターは地域の方々の居場所になってると思うので、図書館や公民館の他にコミュニティセンターという言葉も入った方が良いのではないか。
- ・「図書館と中央公民館が一体となっている會津稽古堂」とあるが、イベントなどで活用を図っているのは稽古堂だけじゃなく、各地区の公民館やコミセンでも十分イベントなども行つてるので、文章を整理してほしい。

〈骨子案全体を通しての議論〉

- ・この提言をして、教育委員会はこれに基づいて、様々な事業化をしていくということなのか。前回の提言に対してのフィードバックの回みたいなものはないのか。ここはできませんでしたとか。それが、いつも足りないと思っている。こんなに時間をかけてみんなで頭を使って議論して、綺麗な文言にしていただいたのに、それを2年間やりましたけど、ここまでしかできませんでした、次回の課題ですとフィードバックすることが必要ではないか。

②その他

◆次期の社会教育委員の推薦について

3 閉会